

AiriP® ワイヤレスIP電話ソリューション

電話コミュニケーションとデータ通信により “業務回転率”を向上。

アサイグループ

キーワードは“回転率”。無線LANに音声とデータ通信を統合し、ITを利益に直結させたケーススタディが、ここにある。

ARUBAによる35台のアクセスポイントを展開した無線LAN環境とPDAとしても活用できるワイヤレスIP電話FOMA® N900iLが、効率を実感できるビジネスの基盤を担う。

Client Profile



アサイグループ

営業本部…アサイ産業株式会社
生産本部…浅井鉄工株式会社
開発本部…浅井興産株式会社

- > 創 業 1947年
- > 設 立 1970年
- > 代表取締役 浅井 重晴
- > 所 在 地 〒923-1104
石川県能美市湯谷町へ18
- > 事業内容 ファインサーボプレス/電動サーボプレス/
油圧サーボプレス/汎用C型油圧プレス/
単動・深絞りプレス/トライアルプレス/
タイスポットングプレス/プレス関連省力化
システム/各種産業機械/企業向けパッケージソフト
- > 電 話 0761-57-2222
- > F A X 0761-58-6113
- > U R L <http://www.asai-corp.co.jp/>

浅井鉄工株式会社
代表取締役社長
浅井 重晴 氏



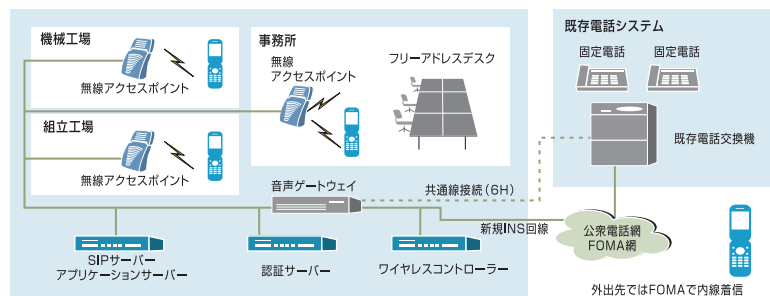
浅井興産株式会社
管理部 副部長
北山 由美 氏



「利他精神」。これが、アサイグループの企業スローガン。つまり、お客様はもちろん社内の同僚も思う心が、企業の力となり、互いの喜びにつながるというもの。その具体的な姿が、コミュニケーションや業務の速さを実現することであった。浮かび上がったのが、これまでの固定電話による、事務所と工場、お客様と担当者のコミュニケーションの遅さの解消。そして、システム別に構成されていた情報基盤の統合であった。音声通信とデータ通信を1つのLAN基盤へ。選択されたのが、ユニアデックスのネットワークノウハウが十分に生きる、無線LAN環境、AiriP (アイリップ) だった。

Needs

- > 社内の呼出し放送をなくし、迅速な電話対応をしたい。
- > フリーデスクを実現する電話システムが欲しい。
- > 製造現場においても自由なLAN環境を構築したい。
- > 1つの端末で、電話とPDAの活用を行ないたい。
- > 業務の“回転率”を上げる情報基盤がほしい。



業務の効率化とは、 時間をムダにしないこと。

油圧プレス、高精度サーボプレスなどのプレスマシン、産業機械のアッセンブリを行なうアサイグループ。広い敷地内には、要求精度によって対応する恒温工場や大型組立工場などがいくつも立っている。この現場環境において悩みの種となっていたのが、社内の呼び出し放送であった。また、生産設備やラインが並び工場内ではLAN配線が限定され、しかも移設の自由度が低いという問題であった。「呼出し、対応、という行為は、なにより時間を消費しているということを忘れてはいけないと思う」と言うのは管理部 副部長の北山氏。「限定された電話やLAN環境では、工場内での情報活用に手間と時間がかかる。よく業務の効率化と言うが、効率とは時間をムダにしないことではないか」と核心を語る。そこで取り組んだのが、電話システムとデータ通信システムの一掃であった。2005年3月、新工場の増設と事務所移転タイミングを捉えた時であった。

業務の“回転率”を上げることが 利益につながる。

「一日の時間は限られている。その中で製品品質の向上と維持、さらに、コストダウンをせねばならない。製造業にとって今も昔も永遠の課題である。しかし今は更に時間コストをいかに削減するか」と、浅井社長は経営の方向を見据える。「時間コストの削減とは、回転率だ。人の動き、情報の動き、コミュニケーションの動き、いわば業務を遂行するための基本となるものの回転率を上げることで、ムダな時間を潰していくことができる。まさにヒト、モノ、カネそして情報である」というの



効率良く設置されたアクセスポイント

である。これを受けて、北山氏は無線LANの検討に入ったのであった。「施設リニューアルがインフラ再編の好機であったこと。また、既存のPBXを活用してFOMAによる無線IP電話が活用できること。この無線LAN環境上で工場内のどこでもPCを接続し、フリーデスクによる生産管理情報の活用が可能であること。さらに、広帯域によりデータのトラフィックも安定していること」が、ユニアデックスのワイヤレスIP電話ソリューションAiriPの採用につながったのである。ARUBAによるアクセスポイント35台。端末のFOMA N900iL 50台のスタートであった。

1つのシステムに 2つ以上の仕事をさせる。

「1つの機能に1つの仕事だけをさせていたのでは、投資の回転率がよくない。そういう意味で、無線LAN上に音声とデータ通信を統合できるという点はすばらしい。次に回転率を見える化できることを考えた」と浅井社長が言う。「電話は、早く仕事をするためのもの。データ通信は、仕事を早く見える化するためのもの。次に課題となったのが、在庫の見える化だった。それを無線LANとFOMA端末の機能を使ってPDAとして使おうと考えた」と北山氏がにつける。「製造業においては、受注に迅速対応するために過剰な在庫を抱えがちであり、いま在庫管理と適正化が大きな課題となっている。また、在庫の把握だけでなく、トレーサビリティへの対応も不可欠となった。FOMA N900iLのQRコード機能によってバーコードを読み取り、無線LANを使って基幹システムと連携をとる。FOMA N900iLをPDA端末として用いることで、部品の棚卸しなど在庫の事実把握が早くできるようになった。この見える化した在庫を



工場現場で活躍のAiriP

部品発注システムに利用することで在庫削減を図ることが一番の目的」と北山氏が受ける。まさに、1つの機能に複数の仕事をさせ、また、情報の回転率を上げ経営の回転率を上げることで利益に結び付けるアサイグループの躍動の秘密がここにあるような気がする。

無線LANで気になる“通話切れ”も 最少アクセスポイントで解決。

無線LAN環境で気になるのがローミング。これが解決しないと、せっかくのフリーデスク発想による電話もデータ通信も意味をなさない。しかし、アクセスポイントの増加は設備費用に直接的に跳ね返ってくる。特に、大型の工作機械が設置された工場内やいくつもの建屋に分散された工場群、事務所内のパーティション、また、鉄素材／製品による電波の反射など、超えるべき障害が多くあった。こうした環境下で、アクセスポイントを最少に抑えて高品質通信を保証するという命題に応えたのがユニアデックスの技術陣であった。膨大な敷地と工場群、事務所をわずか35台のアクセスポイントでカバーしたのである。北山氏は「反射だらけの劣悪環境にもかかわらず、とことんあきらめず納得いくまで、作りあげてくれた。これまでのノウハウに期待しての選択であったが、その通りの仕事をしてくれた」と高い評価。さらに「固定電話の時は、ついつい個人の携帯電話を使ってしまう。個人への料金負担も大きかったが、今はどこにいても自分の電話として使うことができるから業務対応に大きな差が出てきたし、なにより、仕事への責任感が大きくなったようだ」と浅井社長と北山氏は笑う。その笑いをユニアデックスが支えつづけているのである。

UNIADEX

ユニアデックス株式会社

本社 東京都江東区豊洲1-1-1 〒135-8560
電話 03-5546-4977

<http://www.uniadex.co.jp/>

※AiriP (アイリップ) は、ユニアデックス株式会社の登録商標です。
※FOMA/フォーマは株式会社NTTドコモの登録商標です。
※記載の会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。
※自治体・企業・人物名は、取材制作時点のものです。